



日本プライマリ・ケア連合学会
関東甲信越ブロック支部 活動報告

発行人
関東甲信越ブロック支部長
西村 真紀
E-Mail:kanto_koshinetsu@primary-care.or.jp

ニュースレター No. 7 (2014. 9)

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部 ニュースレター(2014/09)

2014年5月より関東甲信越ブロックも新体制となっておりますが、現在各都県支部の活動状況の確認など少しずつ皆様の活動を支援できる体制を整理しております。今回は第3回地方会のご案内などを中心に報告いたします。

1. 第3回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会のご案内

今回は神奈川支部が担当し、横浜で開催致します。より多くの皆様にお集まりいただけましたら幸いです。

日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部 会長 松田隆秀
日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック代表 西村真紀

日時 2014年(平成26年)11月30日(日) 9:00~16:30 予定

会場 神奈川県総合医療会館(横浜市中区富士見町3-1) 横浜市営地下鉄 伊勢佐木長者町駅 近くにあります。
<http://www.marianna-u.ac.jp/jsasem51/annaizu.html>

テーマ 「みんなで近未来の地域医療を考える」

I. シンポジウム「近未来の地域医療へ向けた取り組み(仮題)」

未来の地域医療には多くの課題が示されています。これらの課題に対してそれぞれの職種、立場から近未来の地域医療に向けた取り組みを紹介していただきます。それぞれの取り組みを理解し、議論し、協働から融合する近未来の地域医療を少しでも可視化したいと思います。そして、皆様が取り組むべき活動目標が具体化されれば幸いです。

基調講演 日本プライマリ・ケア連合学会理事長 丸山泉理事長

シンポジスト 各職種より6名予定

II. 講演①「医療者間の協働,そして患者と医療者が協働した地域医療へ(仮題)」

NPO 法人ささえあい医療人権センター 山口育子氏

III. 講演②「終末期医療(がん、非がんを含む)(仮題)」

梶原診療所 平原佐斗司先生

IV. 講演③「プライマリ・ケアー糖尿病実践教室(仮題)」

聖マリアンナ医大 代謝・内分泌内科教授 田中逸先生

V. ラウンドテーブル・ディスカッション「急性期病院退院後を患者の視点から見る」

企画 横浜市立大学附属市民総合医療センター 地域連携相談部 長谷川修先生

地域完結型医療、病院から在宅への流れの中で、「患者として何が幸せか、社会として何が可能か」について、各演者の立場から、職種の立場から、どう考え、どう行動するかに関して基調講演をいただいた後、参加者全員に発言をお願いしたいと思います。会場は38席の円卓で、参加は事前申し込み制とします。

VI. ワークショップ①

企画 亀田ファミリークリニック 岡田唯男先生

テーマ「2025年問題（仮題）」

VII. ワークショップ②

企画 相模原市国民健康保険 内郷診療所 土肥直樹先生

テーマが決まり次第、事前申し込み受付を案内致します。

【プログラムが出来次第、重ねてご案内致します。地方会終了後は是非、みなとみらい21や中華街にお寄り下さい。】

2. 関東甲信越ブロック議員総会のお知らせ

「関東甲信越ブロック議員総会」を **11月30日地方会中のお昼休み**に行います。代議員の皆様、ご出席をお願いいたします。詳細は改めて事務局よりご案内致します。

※ 「若手家庭医会総会」をお昼休みに開催する予定です。詳細は改めて事務局よりご案内致します。

3. 横断的活動募集のご案内

平成26年度より関東甲信越ブロックでは、各都県の枠を超えたプライマリ・ケアの普及・生涯学習などの横断的な活動に対して、関東甲信越ブロックとして補助金の助成を行っております。

平成26年度は横断的活動として、以下の3つの活動計画の提出がありました。

1. 第27回いばらき医療福祉研究集会、第8回茨城歯科医療フォーラム
2. 新潟プライマリ・ケア研究会
3. 関東家庭医療ネットワーク

来年度も募集を行う予定ですので、関連の活動をされている皆様ふるってご応募いただければと思います。詳細は改めてご案内いたします。

4. 関東甲信越ブロック 都県支部設立状況のご案内

現在関東甲信越ブロックでは、各都県支部のブロック設立に向けて現状の確認を行っております。諸先生方のご協力の下、2014年9月4日現在以下の都県支部の活動と支部長の先生の確認をさせて頂いております。

引き続き現状調査中です。今後確認次第順次掲載させていただきます。

以下順不同

茨城県支部 支部長:今高國夫先生

所属:烏山診療所

連絡先:(電話)029(843)0331 FAX 029-843-3264 Mail: k-clinic@abox2. so-net. ne. jp

埼玉県支部 支部長:中根晴幸先生

所属:(医)明医研 ハーモニークリニック 理事長

連絡先:(電話)048-875-7888 Fax 048-875-7885 Mail:maykennakane@ray. ocn. ne. jp

東京都支部 支部長:鈴木央先生

所属:鈴木内科医院 副院長

連絡先(電話)03-3772-1853 FAX 03-5743-3656 Mail:oh-suzuki@mtj. biglobe. ne. jp

神奈川県支部 支部長:松田隆秀先生

所属:川崎市宮前区菅生 2-26-1 聖マリアンナ医大総合診療内科

連絡先:Mail:t. matsuda-naika@marianna-u. ac. jp

山梨県支部 支部長:古屋聡先生

所属:山梨市立牧丘病院

連絡先(電話)090-7267-1364 0553-35-4434(牧丘病院) Mail:furuya@y-min. or. jp

栃木県支部 支部長:矢吹清人先生

所属:矢吹クリニック

連絡先:自治医科大学地域医療学部門内(電話 0285-58-7394) 事務局長竹島太郎先生

5. 会員・都県支部からのニュース

「長野県支部の設立に向けて」

クリニックコスモス松川 古川善行

特に意識もせず代議員総会に出席しました。席上「各県に支部を作ってくれ」との発言があり司会の丸山先生も後押しされました。これという動きを当県で感じたことなかったのだから聞いた以上逃げられないとの気持ちになりました。当県はこのブロックで一番広く各々の方の活動が見えにくいのと私共の会合が余りに多く多忙すぎて屋上屋を重ねがちです。とは申せ十九番目の専門医誕生に深く関与するとなればメンターシップに火がつかしました。僭越ながら一人で発案し孤軍奮闘し賛同の方々十五名集まりました。近々の内に発起人会を開きますし、規約を決め決議されると入会者を募集します。続いて設立総会、創立学術集会と続ける予定です。多職種の方々に呼びかけ負担をかけない形にしたいです。この点で学会から補助があるのは大変ありがたい。地域の方々からの切なる訴えにまず対応する医療実践者中心の支部にしたいと念じています。

連絡先: クリニックコスモス松川 古川善行 (発案者)

(電話) 0265-36-7037 FAX 0265-36-7038 Mail : cosmoshome@able.ocn.ne.jp

群馬県支部 シンポジウム「多職種連携医療をめざして」開催報告

日本プライマリ・ケア連合学会群馬県支部 役員 前橋協立診療所所長 高柳 亮

2014年3月29日、群馬県支部では年次総会と同時に、シンポジウム「多職種連携医療をめざして」を開催しました。シンポジウムは、群馬県支部副支部長の老年病研究所附属病院院長、高玉真光氏を座長に、各分野8人のシンポジストの報告と、総合討論という形で進められました。

金子歯科朝日町クリニック院長の金子昌則氏からは、口腔ケアに関するケア会議を行ない、多職種でサポートしている人工呼吸器装着患者さんの紹介がありました。群馬県看護協会訪問看護ステーション前橋南管理者の生須典子氏は、連携のために必要な要素として①目標を共通理解、②情報の共有、③お互いの職種の理解と役割分担を挙げました。多職種協働の課題としては、情報を集約して方向性を示す役割が必要であること、情報共有の労力が大きいことを挙げました。前橋市薬剤師会副会長の木村薫氏は、高齢化社会において薬剤師が果たす役割の重要性について発表しました。残薬の問題については、驚くべき事例の紹介もありました。老年病研究所附属病院リハビリテーション科長の丹下弥生氏からは、急性発症へのリハ介入を早期に開始する工夫や、入棟時ミニカンファなどの紹介がありました。多職種協働のためにはお互いが話しやすい雰囲気を作ることが重要と強調しました。事例を継続してみることが少なくなり、連携の成果を感じにくくなっている現在、フィードバックの仕組みを作ることが必要と訴えました。前橋市地域包括支援センター西部副センター長主任マネージャー山田圭子氏からは、医師の多忙、専門用語への抵抗などから、「医師に相談しにくい」と感じているCMが多い現状が報告されました。一方で、CMが過剰に敷居を高く感じすぎている面もあるとのこと。地域の事例検討会を実践している経験を踏まえ、「顔が見える関係作り」にとどまらず、「顔が見えて、意見を交わせる関係作り」をすることが重要だと訴えました。老年病研究所附属病院地域医療福祉連携室主任の狩野寛子氏は、MSWとして注意している点は、生活の状況、経済的不安、地域・社会・家族との関係、家族内力学、キーパーソンについての情報であるとした上で、MSWは医療と生活を連続的に支えるコーディネーターとしての役割を求められていると述べました。群馬県健康福祉部医務課長川原武男氏は、今後、市町村と、医師会の連携が重要な課題であると強調しました。平成26年度からはあらたに在宅医療総合推進事業が新設され、在宅医療に係る人材育成、多職種連携促進、県民への普及を推進する方針とのことでした。医師の立場として、わたくし(高柳)からは、病院で15年間、診療所で5年間働いた経験を元に、多職種連携について感じている課題について、「多職種協働五箇条」という形で発表させていただきました。一条：ダメだし文化→責めない文化へ、二条：ピラミッドな関係→フラットな関係へ、三条：土壇場情報共有→先取り情報共有へ、四条：病気だけの情報共有→人生の情報共有へ、五条：本人だけ癒す医療→家族も癒す医療へ、と以上五箇条について、事例も交えながら提起させていただきました。

総合討論では座長の高玉先生のウィットに富んだ司会のもと、真剣な討論が行われました。

当日は総勢87名ものご参加をいただき、多職種協働の取り組みの第一歩になったのではないかと感じました。今後、群馬県支部といたしましては、多職種協働の「結び目」としての役割を担っていければと考えております。

栃木プライマリアケア研究会の現況と活動について

矢吹クリニック 矢吹清人

◎会員数40名（医師、薬剤師、鍼灸師、弁護士、新聞記者など誰でも参加できる）

◎会長 矢吹清人（開業医宇都宮市）

副会長 梶井英治（自治医科大学） 寺門道之（開業医小山市）

事務局長 竹島太郎（自治医科大学）

◎事務局 自治医科大学地域医療学部門内（電話0285-58-7394）事務局長竹島太郎

◎過去1年間の活動の概要

2013年8月、11月、2014年2月、8月に矢吹クリニックセミナーハウスで、10～20名の会員による、テーマを決めた全員発言のフリートークセッションを行っている。8月のテーマは「ありふれた訴えについての対応」で、かぜ・腰痛・頭痛について好きなもの1つ選びそれぞれが発表した。この独特のセッションは、本会の「いのち」で15年前に創設以来60回目となる。

2014年5月 講演会「腹部救急のピットホール」講師 林寛之先生〈福井大学総合診療部教授〉参加者70名と盛会

◎会の特徴

- ◆なんでも自由にものが言える会。開業医、病院勤務医、大学病院勤務医の意思疎通が良好
- ◆お互いを先生ではなく「さん」で呼ぶ
- ◆合言葉はプライマリ・ケア。これが共通の理念
- ◆会員のプライマリ・ケア度は、すこぶる高い。でも新参加者には極めて優しい

関東甲信越ブロックでは、ニュースレターにてブロック会員の皆様の活動報告なども掲載する予定です。掲載希望の方は以下メールアドレスまでご連絡いただければと思います。

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部 事務局

kanto_koshinetsu@primary-care.or.jp
